

5. 社会人向け教育プログラムの充実・豊富化に向けた検討

5.1 実施方法（アプローチ方法）及び分析手法

前述の調査研究 2. 3. 4.の分析結果を踏まえ、以下の 2 つの観点から、社会人向け教育プログラムの充実・豊富化に向けた課題を抽出し、その課題を解決するための方策について検討した。

(1) 受講者、企業、大学の 3 者ニーズ面での検討

前述の 2.で述べたアンケート調査結果に基づき、教育プログラム分野（中カテゴリ 26 分野）の各知識・技能項目（教育プログラム中カテゴリ 1 分野あたり 15 項目）について、受講者の学習ニーズ（学習意欲）、企業の従業員に対する教育ニーズ（教育意欲）、大学の教育サービスニーズ（提供意欲）の 3 者ニーズを比較し、教育プログラム分野ごとにどのような特徴があるのか整理した。

(a) 受講者の学習ニーズ（学習意欲）

個人モニターを対象に「あなたが学習したいと考える 5 つ以上のテーマについて、学習を希望する内容をお選びください」という、設問で知識・技能項目の一覧（資料編 1.参照）からの複数選択式で調査した。当該アンケート調査の詳細については資料編 2.を参照されたい。

(b) 企業の従業員に対する教育ニーズ（教育意欲）

企業の人事担当者モニターを対象に「あなたが従業員に教育したいと考える 5 つ以上のテーマについて、教育を希望する内容をお選びください」という設問で、知識・技能項目の一覧（資料編 1.参照）からの複数選択式で調査した。当該アンケート調査の詳細については資料編 2.を参照されたい。

(c) 大学の教育サービスニーズ（提供意欲）

平成 19 年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」選定事業を対象に「本事業で実施した教育プログラムの内容を表現しているキーワードを選んでください」という設問で、知識・技能項目の一覧（資料編 1.参照）からの複数選択式で調査した。当該アンケート調査の詳細については資料編 2.を参照されたい。

(2) 受講者と企業の学習や活用に関する認識面での検討

前述の 2.で述べたアンケート調査結果に基づき、受講者と企業のそれぞれが知識・技能項目（教育プログラム中カテゴリ 1 分野あたり 15 項目）に対して、活用意向や重要度等をどのように認識しているのか、次の 2 つの観点から教育プログラム分野（中カテゴリ 26 分野）ごとに分析した。

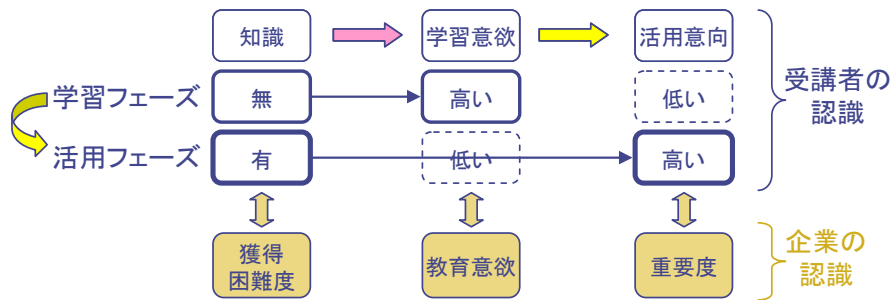


図 82 学習フェーズから活用フェーズへの移行イメージ

(a) 学習フェーズ

受講者が知識・技能を身に付ける学習フェーズとして、受講者が認識する知識・技能項目の有無と、企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度を比較した。以下に分析イメージを示す。番号の示す優先順位を参考に取り組むことが重要と考えられる。

知識・技能項目の有無については、個人モニターを対象に「その知識・技能を身につけていると思いますか」という設問で「身につけている」を 5、「身につけていない」を 1 とした 5 件法で調査した。また、獲得困難度については、企業の人事担当者モニターを対象に「その知識・技能を身につける際の困難さは、どの程度だと思われますか」という設問で「困難」を 5、「困難でない」を 1 とした 5 件法で調査した。当該アンケート調査の詳細については資料編 2 を参照されたい。

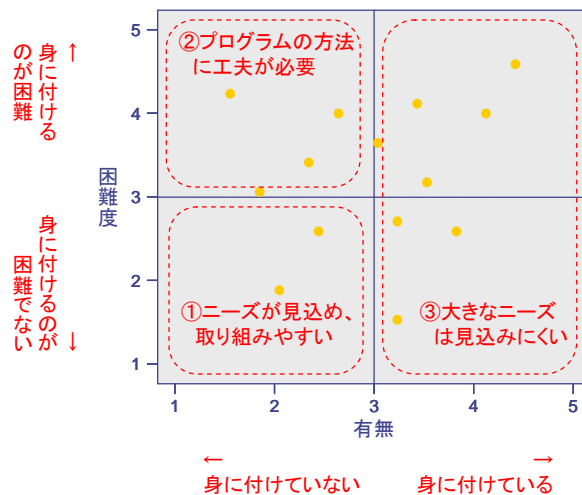


図 83 受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度の分析イメージ

(b) 実践フェーズ

受講者が身に着けた知識・技能を日常の業務や生活に活かす実践フェーズとして、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度を比較した。以下に分析イメージを示す。番号の示す優先順位を参考に取り組むことが重要と考えられる。

知識・技能項目の活用意向については、個人モニターを対象に「その知識・技能を日々の仕事や生活のなかで実際に活用したいと思いますか」という設問で「活用したい」を5、「活用したくない」を1とした5件法で調査した。また、重要度については、企業の人事担当者モニターを対象に「知識・技能は、御社の日常業務において、どの程度重要だと思われますか」という設問で「重要」を5、「重要でない」を1として5件法で調査した。当該アンケート調査の詳細については資料編2を参照されたい。

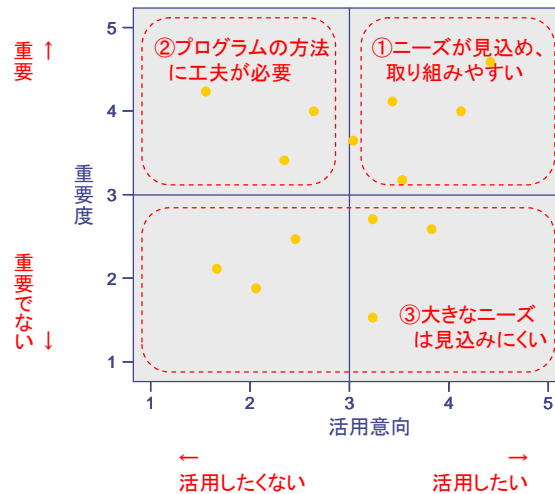


図 84 受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度の分析イメージ

次項以降にて、上記手法に基づく分析結果を教育プログラム分野ごとに示すが、その中で算出している相関係数（R 値）について補足する。教育プログラム分野の各々において、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ算出する相関係数は、受講者と企業の各観点から教育プログラム分野が知識・技能項目のセット（1 教育プログラム分野あたり 15 項目）によりどの程度体系的に構成されているのか、その度合いを示すものと解釈できる。従って、次項以降で教育プログラム分野ごとに示す知識・技能項目のセットとそれに基づき算出される相関係数は、社会人向け教育プログラムのさらなる拡充を図る上で、受講者と企業のニーズに合ったカリキュラムを体系化するための1つのモデルとして参考になるものと期待される。

ここで、各教育プログラム分野の上記相関係数を抜粋して表 27に示す。詳細については次項以降を参照されたい。

表 27 受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度と、
受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度の相関係数

No.	大カテゴリ (8分類)	中カテゴリ (26分類)	内容例	相関係数(R値)	
				有無と 獲得困難度	活用意向と 重要度
1	看護・医療・ 歯学	看護学	患者の評価、治療・処置の判断、助産、コミュニケーションスキルなど	-0.69 **	0.82 **
2		介護学	福祉の現状と今後、介護者の心理、リハビリ、予防・ケア、関連法制度など	-0.73 **	0.54 *
3		臨床心理学	心身の理解、カウンセリング、心理・精神療法、患者の家族ケアなど	-0.79 **	0.79 **
4		歯学	接遇・マナー、歯科衛生、歯科技工など	0.10	0.50
5		獣医学	生理・解剖・薬理学、家畜疾病予防・管理学、臨床獣医学、生産獣医療など	-0.40	0.37
6		その他	栄養管理、生活習慣指導、音楽療法、救急救命など	-0.70 **	0.93 **
7	薬学	薬学	病態、調剤、薬物治療モニタリング、薬暦管理など	0.32	0.41
8		生命科学	生物化学、遺伝子工学、免疫学、環境科学、ゲノム科学など	-0.25	0.62 *
9	教育学・保 育学	教育学	授業の魅力づくり、子どもの理解、発達障害の理解・支援、カウンセリングなど	0.24	0.42
10		保育学	子どもの発達、疾病の知識と対応策、生活習慣指導、保護者への働きかけなど	0.26	0.10
11	語学	語学	外国語、異文化の理解、多文化の共生、児童英語教育、日本語教育など	0.22	0.92 **
12	経済学・ビジ ネス	MOT(技術経 営)	マーケティング、コストマネジメント、知財・知識マネジメント、経営戦略など	0.19	0.93 **
13		起業	マーケティング、事業計画作成、起業事例、ビジネスマナー、起業動機の確立など	-0.18	0.90 **
14		キャリア教育	コミュニケーションスキル、自己分析、キャリアデザイン、文書作成ソフト操作、ビジネス教養など	-0.65 **	0.86 **
15		地域・地方ビ ジネス	地域ブランド戦略、地域中小企業経営者のための人事・生産・ITマネジメントなど	0.04	-0.07
16		国際ビジネス	国際私法・民事手続法・取引法の理解、ビジネス英語・ドラフティングなど	0.09	0.58 *
17		その他	服飾技能など	-0.39	-0.52 *
18	社会学	多文化コミュ ニケーション	多文化社会における文化・言語・宗教、ボランティア・NPO、企業におけるダイバーシティマネジメントなど	-0.43	0.30
19		観光	地域文化・歴史、ホスピタリティ、観光案内の実践、観光ビジネス、外国語など	-0.55 *	0.28
20		地域活性化	観光・産業活性化、地域資源の発見と情報発信、地域の起業家・CIO育成など	-0.14	0.60 *
21		環境・自然	森林・河川環境・生態学、自然保護・再生施策、地震・洪水対策、CSR・SRIなど	0.34	0.43
22		文化・歴史遺 産	文化財保護と景観保全、地域文化の振興と継承、文化情報の収集・管理など	-0.10	0.10
23	農学	農学	環境保全型農業技術、消費者ニーズに対応した生産技術、家畜学など	0.53 *	0.57 *
24	理工学・研 究開発	IT	パソコン・文書作成ソフト操作、グラフィックス・デザイン、CAD操作、DB構築、プログラミングなど	-0.95 **	0.85 **
25		建設・建築	CAD操作、コンクリート健全度診断、ICT利活用など	-0.83 **	0.73 **
26		工学	材料力学、構造解析、デジタル回路設計、組込みシステム開発、経営工学など	-0.54 *	0.69 **

なお、**印は相関係数が1%水準で有意であることを、また*印は相関係数が5%水準で有意であることをそれぞれ示す。

5.2 社会人向け教育プログラムの充実・豊富化に向けた分析および検討

5.2.1 看護学分野

看護学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中 カ ゴ リ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学 習ニーズ (n=49)	企業教 育ニーズ (n=24)	大学 シース (n=11)	0% 50% 100%
看護学	看護の基礎 知識・技能	1-1	ITスキル	32.7%	50.0%	27.3%	
		1-2	コミュニケーションスキル	49.0%	75.0%	72.7%	
		1-3	ストレス管理	53.1%	79.2%	27.3%	
		1-4	ホスピタリティ	44.9%	66.7%	9.1%	
		1-5	からだの機能や仕組み	71.4%	70.8%	36.4%	
		1-6	フィジカルアセスメント(患者の評価、 治療・処置の判断など)	63.3%	50.0%	63.6%	
		1-7	看護に関わる制度や法的責任	34.7%	50.0%	45.5%	
	看護の専門 知識・技能	1-8	小児期・成人期・老年期などの各期 の特徴や発達段階を踏まえた看護	51.0%	41.7%	54.5%	
		1-9	特定症状の患者(糖尿、がん、脳血 管障害など)の看護	42.9%	45.8%	36.4%	
		1-10	看護ケア(口腔、皮膚、排泄物など)	44.9%	45.8%	18.2%	
		1-11	在宅ケア	57.1%	50.0%	27.3%	
		1-12	助産	46.9%	29.2%	36.4%	
		1-13	家族看護(患者の家族に対するケア など)	55.1%	50.0%	27.3%	
		1-14	看護研究(文章表現力、文献・情報 検索法、論文の批判的吟味など)	26.5%	25.0%	18.2%	
		1-15	先端医療	55.1%	45.8%	18.2%	

図 85 看護学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

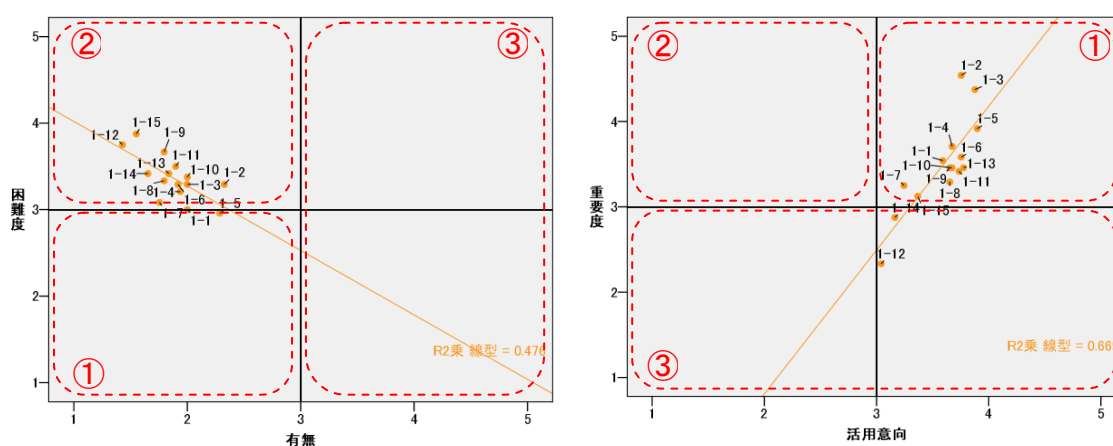


図 86 看護学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.2 介護学分野

介護学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=112)	企業教育ニーズ (n=38)	大学ニーズ (n=6)	0% 50% 100%
介護学	介護の基礎	2-1	福祉の現状と今後	58.9%	76.3%	83.3%	
		2-2	介護論	50.0%	63.2%	50.0%	
		2-3	虐待とその解決	37.5%	52.6%	33.3%	
		2-4	健康科学入門	39.3%	39.5%	33.3%	
		2-5	介護にまつわる法律・制度・権利	55.4%	73.7%	50.0%	
	コミュニケーション	2-6	老年期の心理	45.5%	57.9%	33.3%	
		2-7	高齢者、障害者の生きがい	40.2%	60.5%	50.0%	
		2-8	老化と生活機能	52.7%	55.3%	50.0%	
		2-9	障害者の就労	31.3%	42.1%	16.7%	
	予防・ケア	2-10	介護予防(要支援や要介護の状態になることを予防すること)	67.0%	73.7%	66.7%	
		2-11	低栄養予防	42.0%	36.8%	33.3%	
		2-12	カウンセリング	58.9%	65.8%	16.7%	
		2-13	リハビリテーション	67.9%	57.9%	50.0%	
		2-14	リスク管理学	25.0%	65.8%	16.7%	
	医療知識	2-15	救急医学	60.7%	63.2%	0.0%	

図 87 介護学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

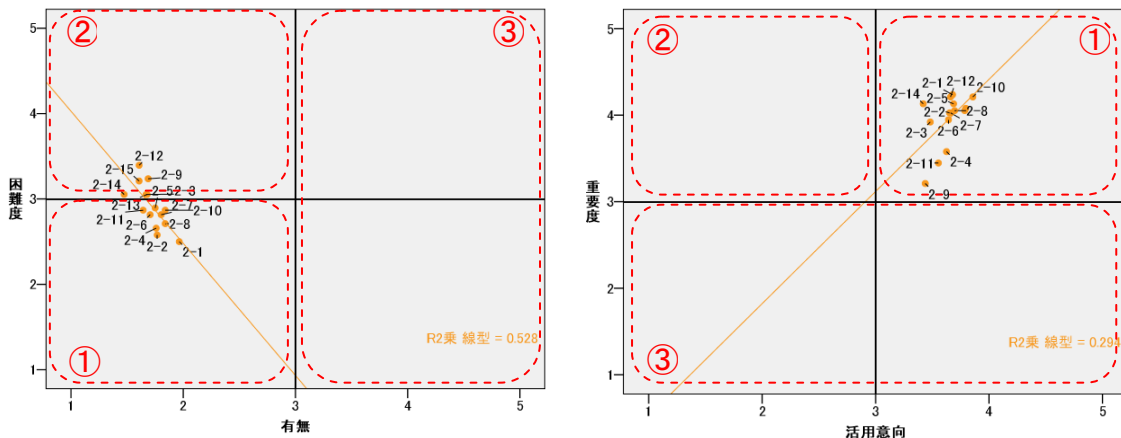


図 88 介護学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度 (左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度 (右)

5.2.3 臨床心理学分野

臨床心理学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中 カ テ ゴ リ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学 習コース (n=106)	企業教 育コース (n=54)	大学 シース (n=6)	0% 50% 100%
臨床心理学	臨床心理の 基礎知識・技	3-1	基礎臨床(内科学、小児科学、精神医学、公衆衛生学)	56.6%	31.5%	33.3%	
		3-2	子供の病気、痛みの理解	43.4%	33.3%	16.7%	
		3-3	老年期の理解	48.1%	48.1%	16.7%	
		3-4	発達障害や難病、高次脳機能障害などの理解と援助	46.2%	44.4%	16.7%	
		3-5	心的コミュニケーション	75.5%	75.9%	16.7%	
		3-6	病気がもたらす家族への影響	53.8%	50.0%	16.7%	
		3-7	自閉症の特徴と評価	33.0%	35.2%	16.7%	
	カウンセリング	3-8	話の聴き方	69.8%	90.7%	83.3%	
		3-9	質問能力、回答能力	57.5%	75.9%	33.3%	
	臨床心理の 専門知識・技	3-10	医療診断	37.7%	25.9%	33.3%	
		3-11	心理検査学	50.9%	31.5%	33.3%	
		3-12	心理療法・相談業務	69.8%	66.7%	83.3%	
		3-13	精神療法・認知療法	62.3%	51.9%	33.3%	
		3-14	プレセラピー・集団精神療法	40.6%	51.9%	50.0%	
		3-15	医療従事者や心理職者、福祉職者、教員など対人援助職者のバーンアウト	26.4%	48.1%	16.7%	

図 89 臨床心理学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

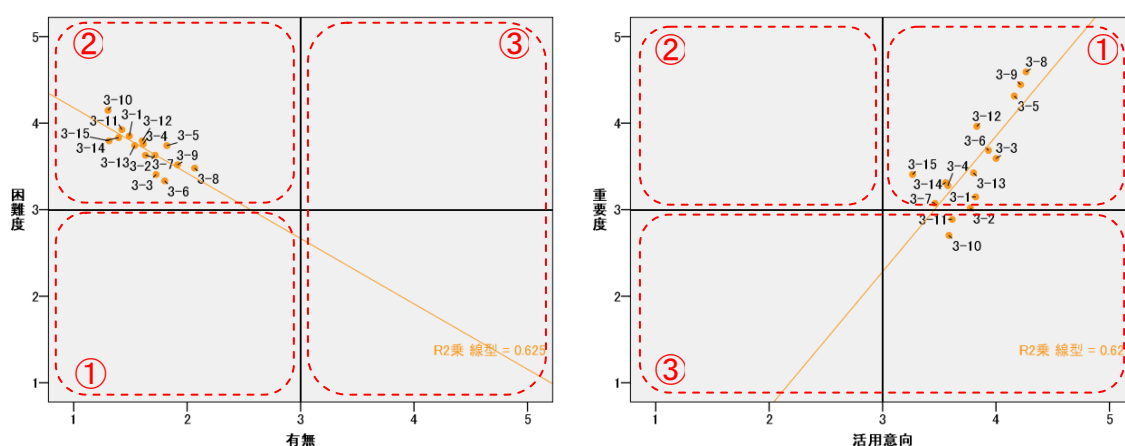


図 90 臨床心理学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度 (左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度 (右)

5.2.4 歯学分野

歯学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。



図 91 歯学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

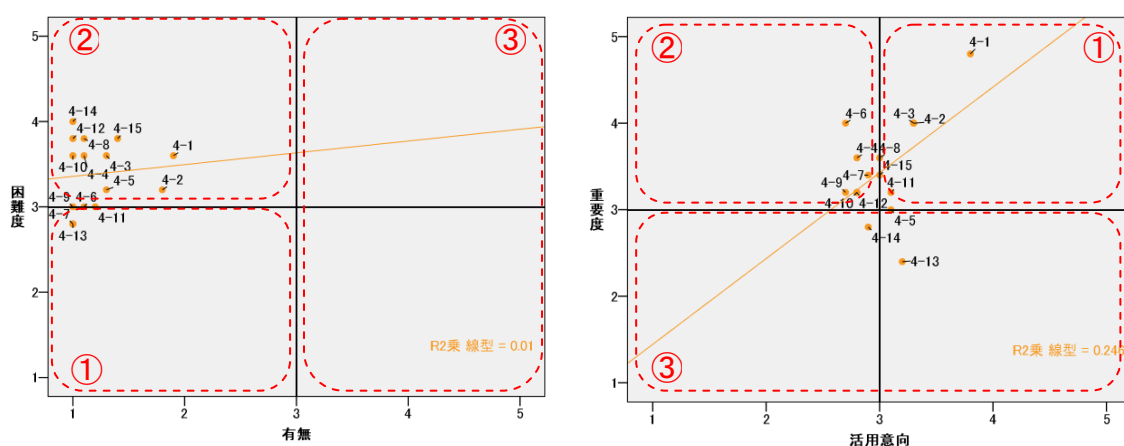


図 92 歯学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.5 獣医分野

獣医学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=29)	企業教育ニーズ (n=3)	大学ニーズ (n=2)	
獣医学	基礎獣医学	5-1	生理学・解剖学・薬理学など	79.3%	66.7%	50.0%	
	応用獣医学	5-2	家畜疾病予防・管理学	72.4%	100.0%	100.0%	
		5-3	食品衛生・安全管理学	69.0%	66.7%	0.0%	
	病態獣医学	5-4	基礎病理学	75.9%	0.0%	50.0%	
		5-5	実験動物取扱学	27.6%	33.3%	0.0%	
	臨床獣医学	5-6	特殊外科(整形外科・眼科)	27.6%	33.3%	50.0%	
		5-7	画像診断学(汎用・特殊)	34.5%	33.3%	50.0%	
		5-8	一般外科学	44.8%	0.0%	50.0%	
		5-9	基礎臨床病理学	65.5%	33.3%	50.0%	
	生産獣医療技術	5-10	生産獣医療と代謝プロファイルテストの概念	24.1%	100.0%	50.0%	
		5-11	牛群検診の方法	10.3%	66.7%	50.0%	
		5-12	乳牛の栄養	24.1%	66.7%	50.0%	
		5-13	飼養標準と活用、飼料の栄養特性	44.8%	66.7%	50.0%	
		5-14	放牧酪農と生産性	20.7%	33.3%	50.0%	
		5-15	飼養・栄養管理と牛の繁殖	27.6%	33.3%	50.0%	

図 93 獣医学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

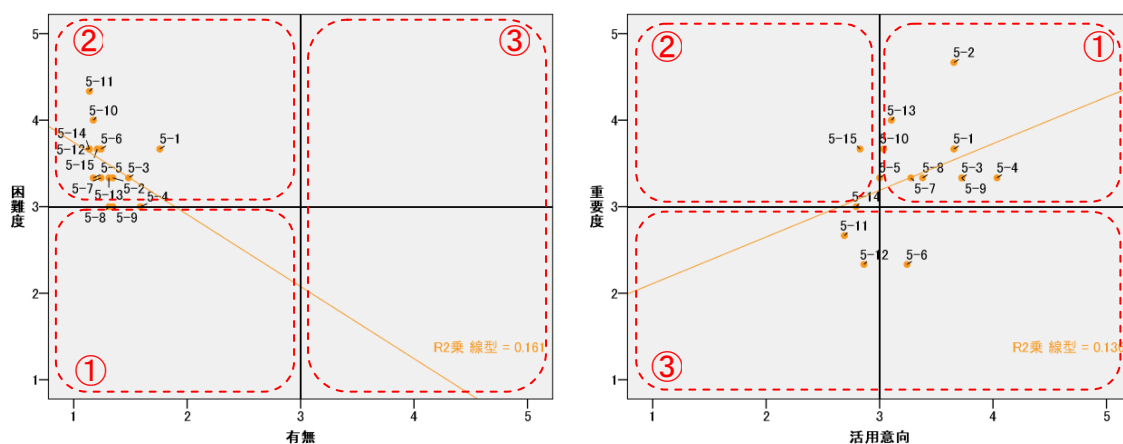


図 94 獣医学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.6 その他（看護・医療・歯学）

その他（看護・医療・歯学）分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=75)	企業教育ニーズ (n=31)	大学ニーズ (n=7)	
その他	専門療法	6-1	音楽療法	48.0%	51.6%	14.3%	
		6-2	医療保育(病院における遊びを用いた支援)	28.0%	22.6%	14.3%	
	救急救命	6-3	バイタルサイン、緊急検査	28.0%	35.5%	14.3%	
		6-4	心肺蘇生法、AEDの使用法	61.3%	77.4%	14.3%	
		6-5	トリアージタッグ、病院の救急体制	21.3%	25.8%	14.3%	
		6-6	救急医療システム、救急医学の特殊性	25.3%	45.2%	14.3%	
	栄養管理・生活習慣指導	6-7	メタボリックシンドローム概要	52.0%	64.5%	28.6%	
		6-8	身体計測の方法、測定結果の解説	34.7%	41.9%	14.3%	
		6-9	栄養・身体活動調査の方法	69.3%	61.3%	14.3%	
		6-10	ストレスとのつきあい方	85.3%	83.9%	14.3%	
		6-11	生活習慣の変化	73.3%	80.6%	28.6%	
	細胞診検査	6-12	病理組織細胞学、病態細胞・血液学、細胞診検査業務など	14.7%	25.8%	14.3%	
	超音波検査	6-13	病態生理情報検査学、生体機能・情報解析学特論、超音波検査業務など	14.7%	25.8%	14.3%	
	医療用デバイス	6-14	医療機器(MRI、CT・PET・超音波等イメージング装置、臨床検査機器など)の基礎	21.3%	19.4%	14.3%	
		6-15	再生医療や人工臓器の基礎	16.0%	19.4%	14.3%	

図 95 その他（看護・医療・歯学）分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

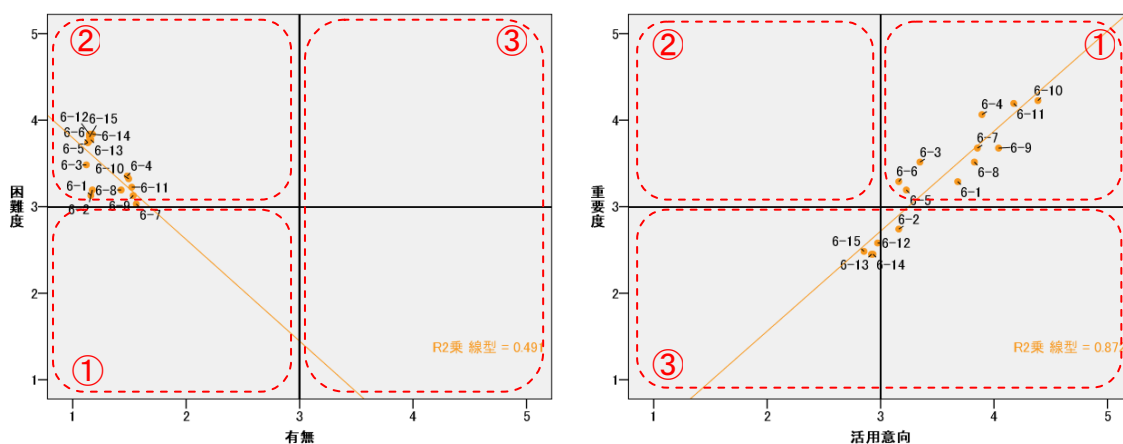


図 96 その他（看護・医療・歯学）分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.7 薬学分野

薬学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=61)	企業教育ニーズ (n=4)	大学ニーズ (n=2)	
薬学	(なし)	7-1	病態	60.7%	25.0%	50.0%	
		7-2	診断、治療	62.3%	50.0%	50.0%	
		7-3	調剤	75.4%	25.0%	50.0%	
		7-4	薬物治療モニタリング	27.9%	50.0%	50.0%	
		7-5	臨床基礎知識	49.2%	50.0%	50.0%	
		7-6	医薬品適正使用・育薬	70.5%	100.0%	50.0%	
		7-7	薬物動態基礎知識	37.7%	75.0%	50.0%	
		7-8	医薬品情報の収集と活用	68.9%	75.0%	100.0%	
		7-9	薬歴管理	49.2%	50.0%	50.0%	
		7-10	服薬ケアのリスクマネジメント	50.8%	25.0%	50.0%	
		7-11	処方せんチェック・疑義照会のリスクマネジメント	60.7%	0.0%	50.0%	
		7-12	一般調剤のリスクマネジメント	52.5%	0.0%	50.0%	
		7-13	基礎医科学	63.9%	100.0%	50.0%	
		7-14	キャリアデザイン	9.8%	0.0%	50.0%	
		7-15	インターンシップ	11.5%	0.0%	50.0%	

図 97 薬学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

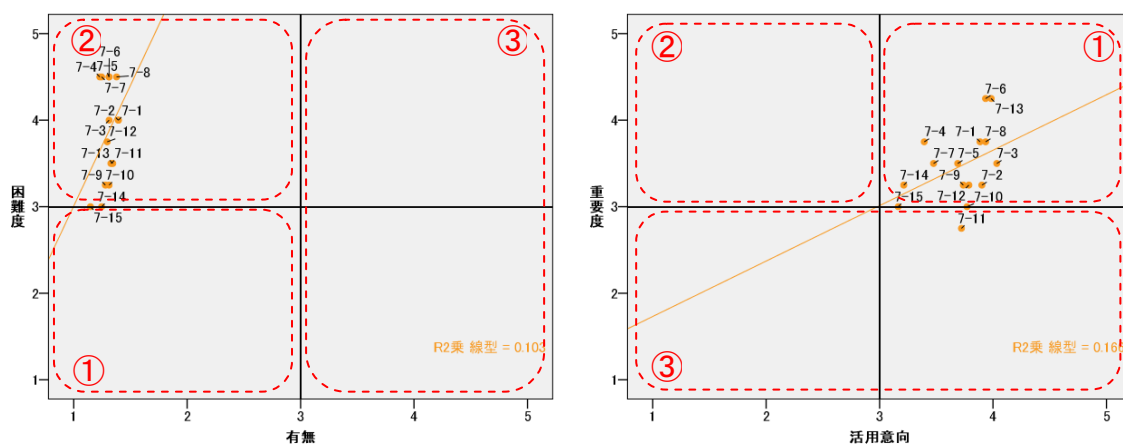


図 98 薬学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.8 生命科学分野

生命科学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=23)	企業教育ニーズ (n=7)	大学ニーズ (n=1)	0% 50% 100%
生命科学	(なし)	8-1	生物化学	78.3%	71.4%	100.0%	
		8-2	遺伝子工学	82.6%	71.4%	100.0%	
		8-3	構造生物学	47.8%	42.9%	100.0%	
		8-4	微生物学	65.2%	42.9%	100.0%	
		8-5	細胞生物学	65.2%	42.9%	100.0%	
		8-6	神経科学	69.6%	42.9%	100.0%	
		8-7	免疫学	78.3%	42.9%	100.0%	
		8-8	生理・生態学	47.8%	42.9%	100.0%	
		8-9	化学	39.1%	57.1%	100.0%	
		8-10	生命物理学	52.2%	42.9%	100.0%	
		8-11	生物情報学	47.8%	42.9%	100.0%	
		8-12	環境科学	47.8%	57.1%	100.0%	
		8-13	ゲノム科学	60.9%	28.6%	100.0%	
		8-14	業界理解(環境ビジネス、創薬ビジネス、食品ビジネスなど)	47.8%	28.6%	100.0%	
		8-15	実務スキル(コミュニケーション、ビジネスシンキングなど)	34.8%	57.1%	100.0%	

図 99 生命科学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

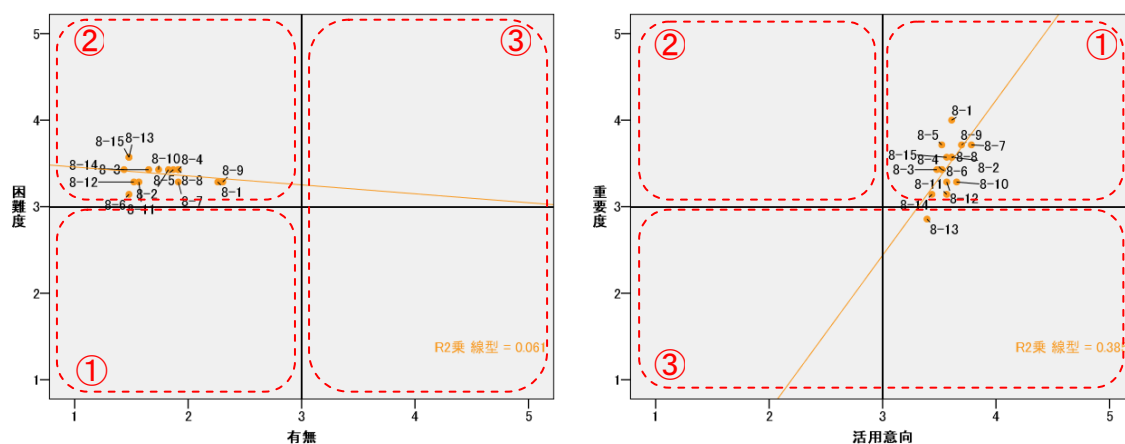


図 100 生命科学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.9 教育学分野

教育学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=61)	企業教育ニーズ (n=29)	大学ニーズ (n=17)	0% 50% 100%
教育学	教育者としての基礎知識	9-1	学校制度の現状と課題、学校教育に関する法規など	29.5%	48.3%	41.2%	
		9-2	子ども理解の基礎	78.7%	62.1%	47.1%	
	カウンセリング	9-3	質問・解釈・問題解決の技法	50.8%	69.0%	35.3%	
	生徒指導	9-4	生きる力の育成	57.4%	31.0%	23.5%	
		9-5	不登校指導や道徳教育の基礎	52.5%	41.4%	23.5%	
	児童心理	9-6	心理学	83.6%	58.6%	29.4%	
		9-7	教育目標と評価	23.0%	41.4%	17.6%	
		9-8	進路、職業に関する指導法	26.2%	55.2%	11.8%	
	教科指導	9-9	授業の魅力づくり	41.0%	62.1%	47.1%	
		9-10	国語・算数・社会などの科目学習の指導方法	31.1%	37.9%	23.5%	
		9-11	教材教具の開発、制作	26.2%	41.4%	41.2%	
	特別支援教育	9-12	発達障害の理解・学習支援・職業支援、補助員の役割など	55.7%	51.7%	58.8%	
	理科系教育	9-13	理科の実験、野外実習の指導方法など	19.7%	20.7%	47.1%	
	IT・情報教育	9-14	文書作成・表計算等ソフトの使い方や情報活用能力、情報モラルなどの指導方法	36.1%	44.8%	23.5%	
	学校・学級運営	9-15	学級の経営・マネジメント、保護者対応など	26.2%	69.0%	47.1%	

図 101 教育学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

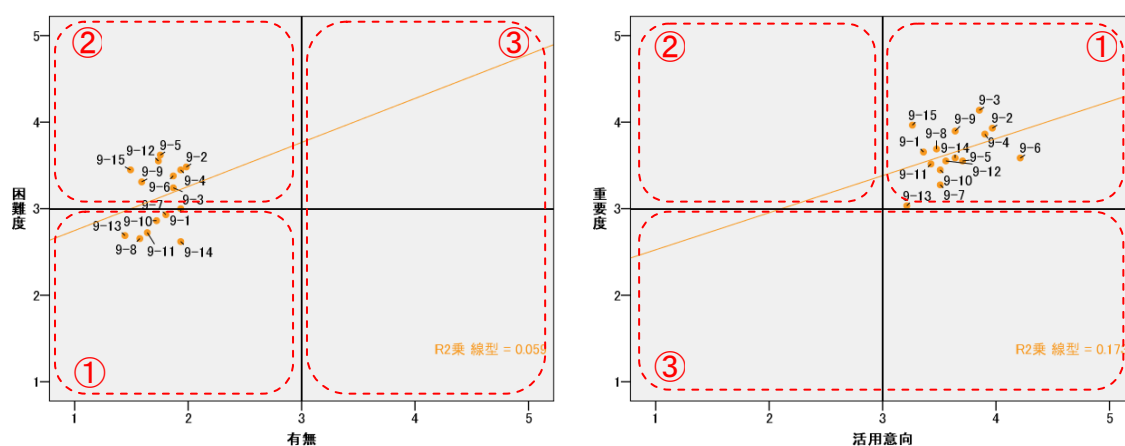


図 102 教育学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.10 保育学分野

保育学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=68)	企業教育ニーズ (n=8)	大学ニーズ (n=4)	0% 50% 100%
保育学	保育の基礎知識・技能	10-1	保育士の倫理	33.8%	37.5%	25.0%	
		10-2	現代の子育て事情(家庭の役割の変容、在宅保育の必要性など)	75.0%	50.0%	25.0%	
		10-3	追い詰められる親の心理構造、ネグレクトや虐待の事例研究など	52.9%	50.0%	25.0%	
		10-4	子どもの発達と保育	82.4%	75.0%	50.0%	
		10-5	疾病の知識と対応策(病児保育、病後児保育など)	45.6%	25.0%	75.0%	
		10-6	子どもの生活習慣の指導(食育、栄養バランス、家庭への働きかけなど)	77.9%	50.0%	75.0%	
		10-7	乳児の保育	67.6%	0.0%	25.0%	
		10-8	障害児の保育	47.1%	25.0%	100.0%	
	保護者との関係	10-9	保護者への働きかけなど	32.4%	62.5%	25.0%	
		10-10	コミュニケーションスキル、対人関係スキル	51.5%	62.5%	25.0%	
	地域との関係	10-11	地域の育児力	27.9%	50.0%	25.0%	
		10-12	保育ボランティアの仕事(幼稚園、保育園以外の保育現場で活躍する保育者)	55.9%	12.5%	25.0%	
	その他	10-13	関連法規、ハラスメント対応	14.7%	25.0%	0.0%	
		10-14	保育マネジメント、経営管理、情報管理など	22.1%	25.0%	0.0%	
		10-15	日常保育の危機管理、災害や事故の危機管理	42.6%	25.0%	0.0%	

図 103 保育学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

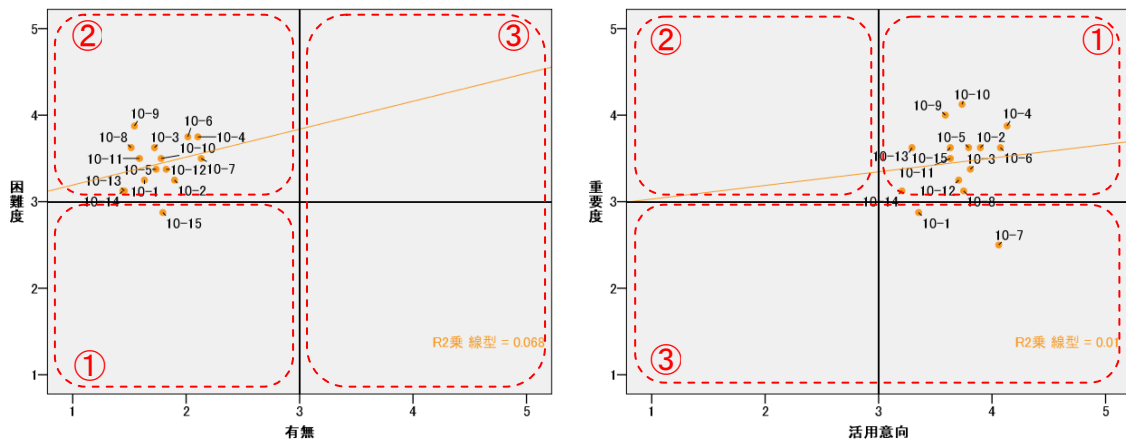


図 104 保育学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.11 語学分野

語学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=340)	企業教育ニーズ (n=128)	大学ニーズ (n=5)	0%	50%	100%
語学	語学の基礎知識・技能	11-1	異文化の理解、多文化の共生	56.5%	53.1%	60.0%	[Bar chart showing needs for 11-1]		
		11-2	言語学	65.6%	46.9%	0.0%	[Bar chart showing needs for 11-2]		
		11-3	国際協力	33.2%	37.5%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-3]		
		11-4	地域社会における多文化	30.9%	40.6%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-4]		
		11-5	教育社会学	17.6%	24.2%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-5]		
	児童英語教育	11-6	教員の英語のレベルアップ(スピーチ、コミュニケーションなど)	31.8%	42.2%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-6]		
		11-7	発音とイントネーションの指導法	54.4%	45.3%	20.0%	[Bar chart showing needs for 11-7]		
		11-8	アルファベットの指導法	20.3%	17.2%	20.0%	[Bar chart showing needs for 11-8]		
		11-9	歌やチャンツ(一定のリズムに乗せて英語を歌のように発音すること)の活用法	26.8%	10.9%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-9]		
		11-10	児童英語教育の現状と今後の展望(小学校英語に対する保護者の期待など)	18.2%	14.1%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-10]		
	日本語教育	11-11	日本語音声、文法	33.2%	35.9%	20.0%	[Bar chart showing needs for 11-11]		
		11-12	日本語教授法	27.1%	25.8%	20.0%	[Bar chart showing needs for 11-12]		
	外国語	11-13	英語(文法、リーディング、ライティング、)	73.8%	74.2%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-13]		
		11-14	英語(リスニング、スピーキング)	85.3%	85.9%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-14]		
		11-15	スペイン語、ポルトガル語、中国語などの、英語以外の外国語	64.1%	50.8%	40.0%	[Bar chart showing needs for 11-15]		

図 105 語学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

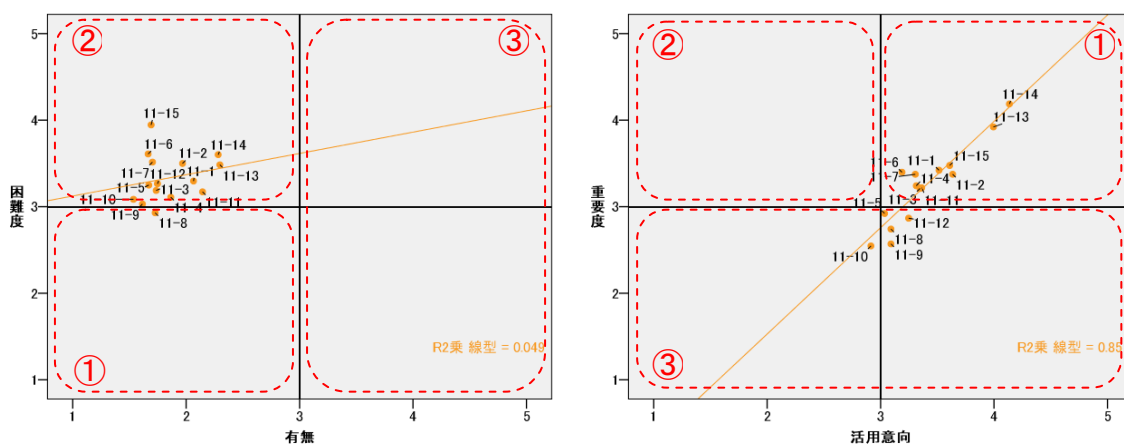


図 106 語学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.12 MOT（技術経営）分野

MOT（技術経営）分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=119)	企業教育ニーズ (n=231)	大学ニーズ (n=3)	0% 50% 100%
MOT (技術経営)	(なし)	12-1	マーケティング	81.5%	80.5%	100.0%	
		12-2	プロジェクトマネジメント	52.1%	58.4%	33.3%	
		12-3	品質マネジメント	37.0%	48.1%	33.3%	
		12-4	製品開発マネジメント	34.5%	34.6%	33.3%	
		12-5	コストマネジメント	59.7%	79.7%	33.3%	
		12-6	ブランドマネジメント	35.3%	30.7%	0.0%	
		12-7	知財・知識マネジメント	47.9%	48.9%	66.7%	
		12-8	人材・組織マネジメント	50.4%	61.9%	33.3%	
		12-9	経営マネジメントゲーム	59.7%	49.4%	0.0%	
		12-10	管理会計、財務会計	60.5%	63.2%	33.3%	
		12-11	経営戦略	66.4%	66.2%	100.0%	
		12-12	企業経営者論、起業教育	33.6%	26.4%	33.3%	
		12-13	イノベーション	27.7%	26.8%	66.7%	
		12-14	経済産業政策	22.7%	18.2%	33.3%	
		12-15	ビジネスのための統計学、社会調査分析など	50.4%	36.4%	0.0%	

図 107 MOT（技術経営）分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

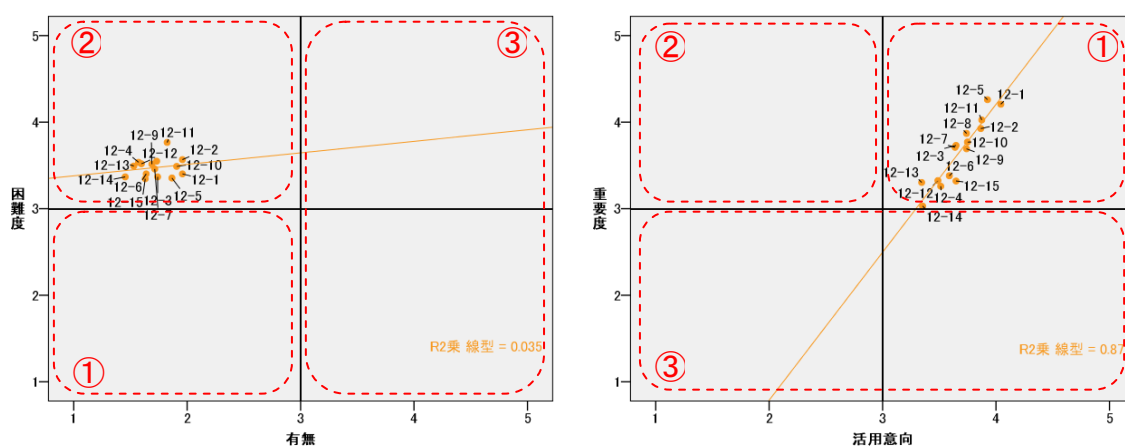


図 108 MOT（技術経営）分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.13 起業分野

起業分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=105)	企業教育ニーズ (n=114)	大学ニーズ (n=6)	0% 50% 100%
起業	(なし)	13-1	ビジネスマナー	59.0%	79.8%	16.7%	
		13-2	ITリテラシー	38.1%	43.0%	33.3%	
		13-3	企画立案スキル	56.2%	69.3%	50.0%	
		13-4	キャリアデザイン	37.1%	28.1%	33.3%	
		13-5	マーケティング	73.3%	71.1%	66.7%	
		13-6	管理会計、財務会計	66.7%	60.5%	33.3%	
		13-7	経営労務	59.0%	61.4%	16.7%	
		13-8	営業情報管理	47.6%	47.4%	16.7%	
		13-9	知財管理、関連法規	42.9%	29.8%	16.7%	
		13-10	事業計画(ビジネスプラン)の作成	63.8%	64.9%	83.3%	
		13-11	定款・登記など会社設立までの具体的な手順	46.7%	25.4%	33.3%	
		13-12	NPOマネジメント	22.9%	15.8%	33.3%	
		13-13	起業の事例・ケースから学ぶ(起業家の講演含む)	58.1%	41.2%	83.3%	
		13-14	ビジネスゲームによる仮想体験	41.0%	33.3%	16.7%	
		13-15	インターンシップ	23.8%	12.3%	33.3%	

図 109 起業分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

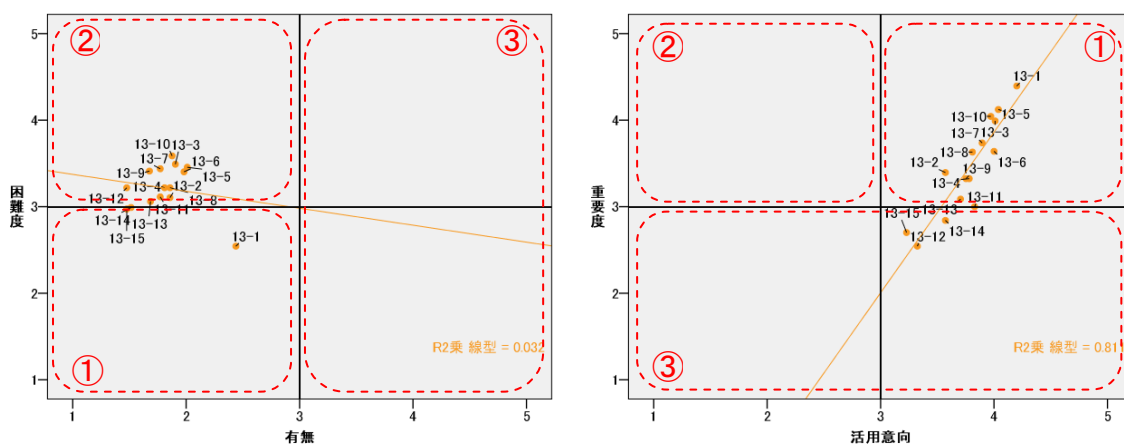


図 110 分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.14 キャリア教育分野

キャリア教育分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=120)	企業教育ニーズ (n=330)	大学ニーズ (n=12)	0% 50% 100%
キャリア教育	ITスキル	14-1	文書作成・表計算等ソフトの使い方	70.0%	70.6%	58.3%	
	語学	14-2	ビジネス英語	53.3%	38.5%	25.0%	
	就労・職業体験	14-3	インターンシップ	15.8%	13.0%	50.0%	
	キャリア形成	14-4	就職活動の支援(面接対策、求人情報活用、就職の現状と動向など)	21.7%	13.3%	66.7%	
		14-5	自己分析	66.7%	63.6%	58.3%	
		14-6	キャリアデザイン・プランニング	38.3%	39.7%	33.3%	
	14-7	時事経済、業界・職種の研究	34.2%	35.8%	58.3%		
	ビジネス教養	14-8	コミュニケーションスキル	74.2%	80.6%	66.7%	
		14-9	文章表現スキル	68.3%	57.9%	16.7%	
		14-10	問題発見と解決	49.2%	71.8%	16.7%	
		14-11	ビジネスマナー	61.7%	76.1%	8.3%	
	ビジネス専門知識・技能	14-12	マーケティング	40.8%	49.1%	16.7%	
		14-13	企業の人的資源管理	22.5%	39.4%	16.7%	
		14-14	経理実務	49.2%	46.4%	25.0%	
		14-15	リーダーシップ	39.2%	60.0%	16.7%	

図 111 キャリア教育分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

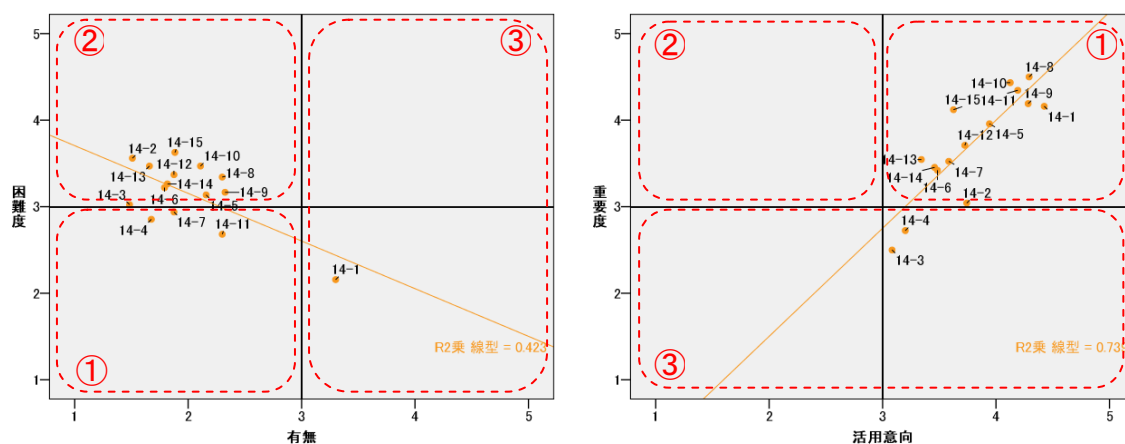


図 112 キャリア教育分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.15 地域・地方ビジネス分野

地域・地方ビジネス分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=47)	企業教育ニーズ (n=96)	大学ニーズ (n=3)	0% 50% 100%
地域・地方ビジネス	地域ブランド	15-1	地域ブランドの構築	61.7%	49.0%	66.7%	
		15-2	地域ブランドのマーケティング	61.7%	55.2%	33.3%	
		15-3	地域ブランドの展開、プロモーション	63.8%	43.8%	66.7%	
		15-4	地域ブランドの事例	55.3%	45.8%	100.0%	
		15-5	ベンチャービジネス論	55.3%	33.3%	0.0%	
	地域中小企業経営者のためのITマネジメント	15-6	情報産業の動向	31.9%	42.7%	0.0%	
		15-7	情報セキュリティ	46.8%	55.2%	33.3%	
	地域中小企業経営者のための人事マネジメント	15-8	人事マネジメントの諸機能(採用、配置、育成、報酬、退職など)	34.0%	59.4%	0.0%	
		15-9	人事評価と人材育成	38.3%	65.6%	33.3%	
	地域中小企業経営者のための生産マネジメント	15-10	ものづくりにおける経営的思考	42.6%	45.8%	33.3%	
		15-11	生産と設備投資	25.5%	40.6%	0.0%	
		15-12	ものづくりと知的財産の活用法	46.8%	36.5%	0.0%	
		15-13	情報システムからみたものづくりとコスト管理	40.4%	45.8%	33.3%	
		15-14	品質経営による継続的改善と経営革新	36.2%	55.2%	33.3%	
		15-15	ものづくりと生産管理	46.8%	35.4%	33.3%	

図 113 地域・地方ビジネス分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

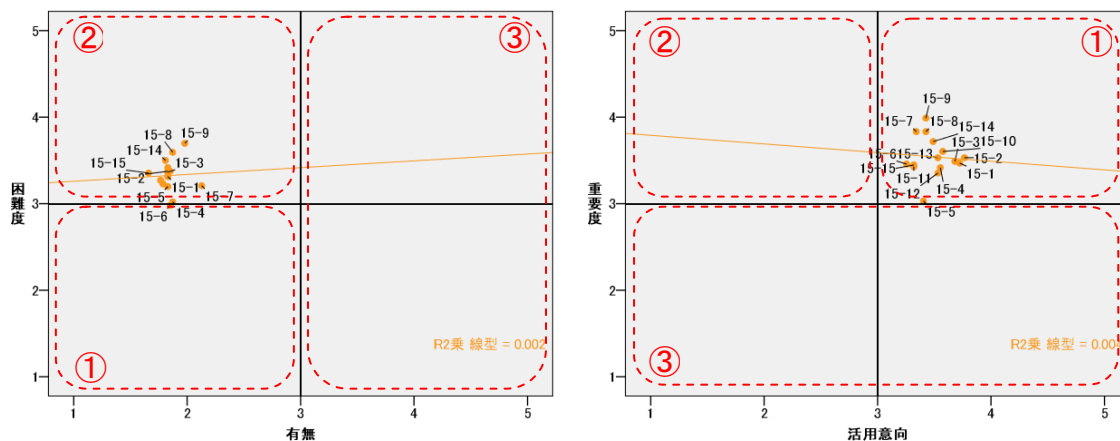


図 114 地域・地方ビジネス分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.16 国際ビジネス分野

国際ビジネス分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=50)	企業教育ニーズ (n=47)	大学ニーズ (n=1)	0% 50% 100%
国際ビジネス	国際私法・国際民事手続法	16-1	法選択概念・法適用通則法	46.0%	34.0%	100.0%	
		16-2	国際契約、物件の準拠法	60.0%	42.6%	0.0%	
		16-3	不法行為の準拠法、特許権侵害の準拠法	54.0%	46.8%	100.0%	
		16-4	外国判決の承認・執行	32.0%	27.7%	0.0%	
	国際取引法	16-5	国際売買・運送	52.0%	55.3%	100.0%	
		16-6	国際的製造物責任	32.0%	48.9%	0.0%	
		16-7	国際取引と知的財産、競争法	60.0%	59.6%	100.0%	
		16-8	通商法・WTO	46.0%	46.8%	0.0%	
	国際ビジネス英語・ドラフティング	16-9	契約一般条項(仲裁条項)	50.0%	48.9%	0.0%	
		16-10	秘密保持契約、ライセンス契約、販売契約	56.0%	57.4%	100.0%	
		16-11	合併契約と会社定款	38.0%	29.8%	0.0%	
		16-12	ビジネス取引コミュニケーションと企業文書	72.0%	78.7%	100.0%	
	国際ビジネス紛争の解決技術	16-13	交渉・仲裁の理論と実際	46.0%	51.1%	0.0%	
		16-14	申立書・答弁書の作成	40.0%	38.3%	100.0%	
		16-15	国際人事・労務管理	30.0%	55.3%	0.0%	

図 115 国際ビジネス分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

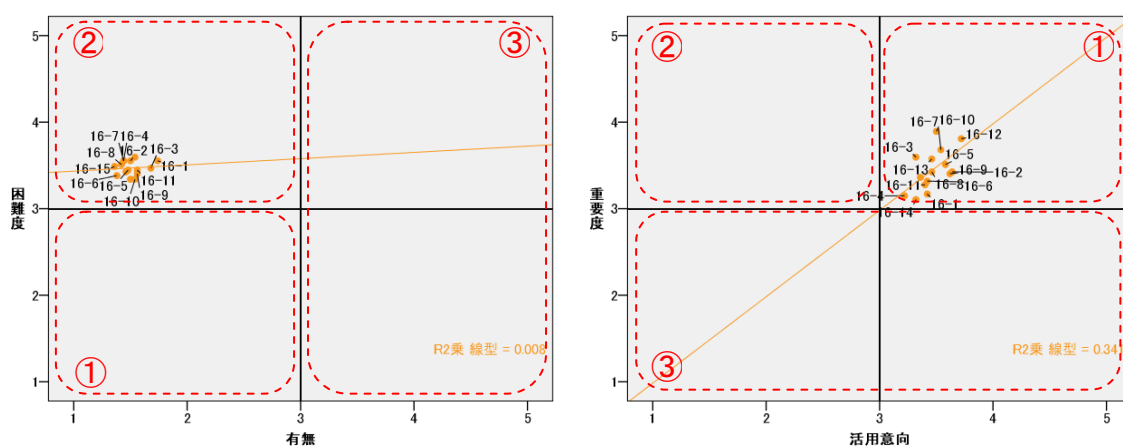


図 116 国際ビジネス分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.17 その他（経済学・ビジネス）分野

その他（経済学・ビジネス）分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=23)	企業教育ニーズ (n=5)	大学ニーズ (n=1)	0% 50% 100%
その他	服飾(立体的裁断(ドレーピン))	17-1	ボディライン入れ	56.5%	40.0%	100.0%	
		17-2	スカートなどのドレーピング	47.8%	0.0%	100.0%	
		17-3	スカートなどの再度組み立て	43.5%	20.0%	0.0%	
		17-4	スカートなどのコルサージュ作図	34.8%	40.0%	100.0%	
		17-5	コルサージュ作図のシーチング組み立て	30.4%	40.0%	100.0%	
		17-6	衿のドレーピング(シャツカラー、オープンカラー)	30.4%	20.0%	0.0%	
		17-7	袖の組み立て	43.5%	20.0%	0.0%	
	服飾(CAD)	17-8	CADの使い方	56.5%	80.0%	100.0%	
		17-9	カット、ダーツのたたみ方	52.2%	0.0%	0.0%	
		17-10	パターンメイキング	69.6%	40.0%	100.0%	
		17-11	縫い代つけ	65.2%	20.0%	100.0%	
		17-12	マーキング	52.2%	60.0%	0.0%	
		17-13	スキヤナ読み込み	26.1%	60.0%	0.0%	
		17-14	グレーディング	21.7%	40.0%	0.0%	
	服飾(平面パターン)	17-15	パンツやブラウスなどの作図、シーチング型出し	60.9%	20.0%	0.0%	

図 117 その他（経済学・ビジネス）分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

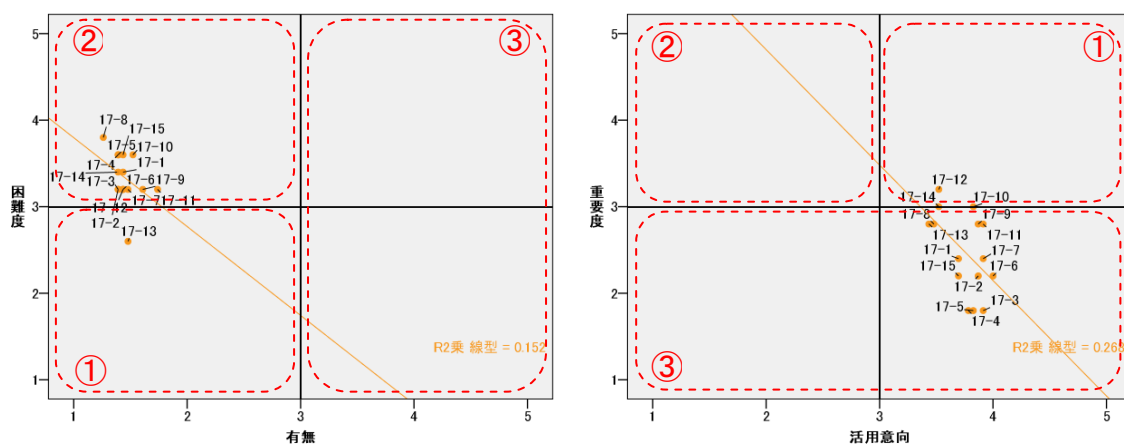


図 118 その他（経済学・ビジネス）分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.18 多文化コミュニケーション分野

多文化コミュニケーション分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=57)	企業教育ニーズ (n=32)	大学ニーズ (n=2)	0%	50%	100%
多文化コミュニケーション	多文化コミュニケーションの基礎	18-1	外国人受入政策	35.1%	50.0%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-1]		
		18-2	多文化社会における文化、宗教、言語	86.0%	59.4%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-2]		
		18-3	第二言語と母語教育	45.6%	34.4%	0.0%	[Bar chart showing needs for 18-3]		
		18-4	地域日本語教育	36.8%	46.9%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-4]		
	社会論	18-5	企業におけるダイバーシティマネジメント	10.5%	43.8%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-5]		
		18-6	国・自治体・市民活動	57.9%	53.1%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-6]		
		18-7	多文化地域社会における福祉の実現	36.8%	34.4%	0.0%	[Bar chart showing needs for 18-7]		
		18-8	メディアリテラシー・情報編集・発信	40.4%	43.8%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-8]		
		18-9	ボランティア・NPO・社会資源	56.1%	62.5%	0.0%	[Bar chart showing needs for 18-9]		
		18-10	参加と協働・ネットワーク	35.1%	46.9%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-10]		
		18-11	国際教育(グローバル人材の育成)	42.1%	56.3%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-11]		
	地域医療コミュニケーション	18-12	医療の基礎知識	28.1%	37.5%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-12]		
		18-13	医療現場での会話	15.8%	18.8%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-13]		
		18-14	外国籍住民の現状	33.3%	25.0%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-14]		
		18-15	基礎的な通訳技術と心得	47.4%	40.6%	50.0%	[Bar chart showing needs for 18-15]		

図 119 多文化コミュニケーション分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

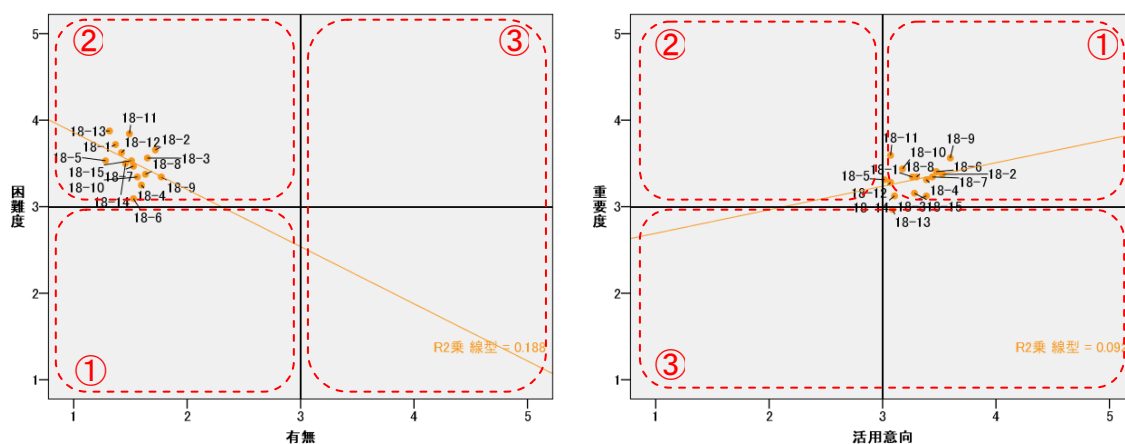


図 120 多文化コミュニケーション分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.19 観光分野

観光分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=84)	企業教育ニーズ (n=24)	大学ニーズ (n=3)	0%	50%	100%	
観光	地域文化・歴史	19-1	日本、各地域の事象を文化、歴史的観点から学ぶ	82.1%	66.7%	66.7%	[Bar chart showing needs for 19-1]			
		19-2	外国人観光客にとっての日本の魅力	63.1%	45.8%	66.7%	[Bar chart showing needs for 19-2]			
		19-3	酒、ワイン、漬物など名産品のたしなみ方	52.4%	37.5%	33.3%	[Bar chart showing needs for 19-3]			
		19-4	ウェルネスツーリズム(心を癒し、体を健康にする旅行)	45.2%	20.8%	33.3%	[Bar chart showing needs for 19-4]			
		ホスピタリティ	19-5	バリアフリーの街づくり	28.6%	41.7%	33.3%	[Bar chart showing needs for 19-5]		
			19-6	外国人旅行者へのもてなし方	50.0%	54.2%	66.7%	[Bar chart showing needs for 19-6]		
			19-7	ホスピタリティと街づくり(ひとづくり、地域住民による街づくり)	36.9%	70.8%	33.3%	[Bar chart showing needs for 19-7]		
	観光案内の実践	19-8	通訳、旅行、観光、ホテル等の関係業界、行政の専門家の講演	56.0%	45.8%	66.7%	[Bar chart showing needs for 19-8]			
		19-9	観光地での臨地講義、実践演習	39.3%	58.3%	66.7%	[Bar chart showing needs for 19-9]			
	観光ビジネス	19-10	インバウンド観光(訪日外国人旅行)	25.0%	20.8%	66.7%	[Bar chart showing needs for 19-10]			
		19-11	ランドオペレーターの機能と役割	7.1%	20.8%	0.0%	[Bar chart showing needs for 19-11]			
		19-12	マーケティングの基礎と実践	31.0%	54.2%	66.7%	[Bar chart showing needs for 19-12]			
		19-13	ポジショニング戦略の基礎と実践	14.3%	33.3%	0.0%	[Bar chart showing needs for 19-13]			
	外国語	19-14	ネイティブ・スピーカーによる実践英語	41.7%	41.7%	33.3%	[Bar chart showing needs for 19-14]			
		19-15	観光英語	51.2%	33.3%	33.3%	[Bar chart showing needs for 19-15]			

図 121 観光分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

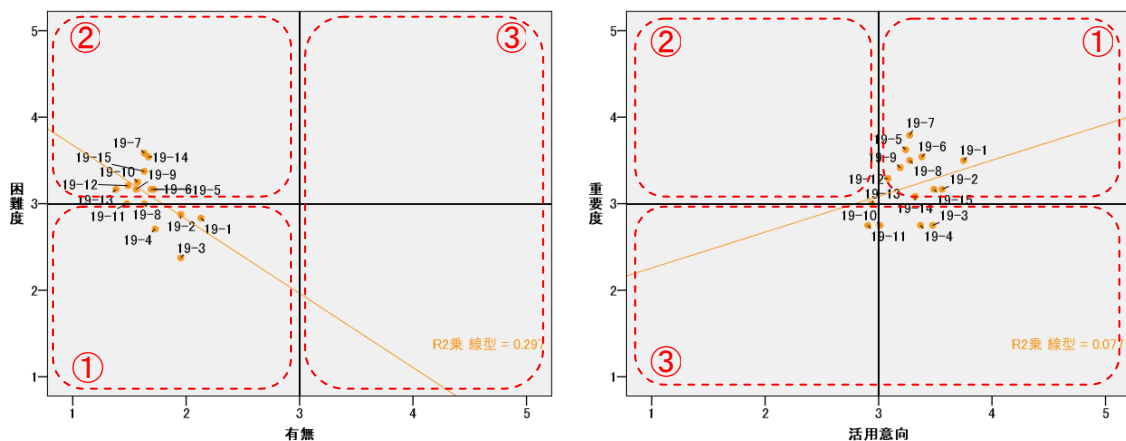


図 122 観光分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.20 地域活性化分野

地域活性化分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=30)	企業教育ニーズ (n=39)	大学ニーズ (n=7)	0% 50% 100%
地域活性化	地域の政策・マネジメント	20-1	地域政策の論点と議論	40.0%	46.2%	14.3%	
		20-2	自治基本条例	36.7%	35.9%	0.0%	
		20-3	政策コーディネートの意義	23.3%	28.2%	14.3%	
		20-4	地方都市の地域づくり	73.3%	56.4%	42.9%	
		20-5	地域コミュニティと自治体	63.3%	66.7%	85.7%	
		20-6	行政経営研修・企業経営研修	20.0%	46.2%	14.3%	
		20-7	NPO育成(ソーシャルプロジェクトマネジメントなど)	43.3%	33.3%	14.3%	
		20-8	地域経済活性化に向けたアントルプレナー、CIO育成	30.0%	30.8%	14.3%	
		20-9	地域活性化人材(コーディネーター、プランナーなど)の育成	60.0%	69.2%	42.9%	
		20-10	観光・産業活性化	70.0%	61.5%	42.9%	
		20-11	企業誘致	30.0%	35.9%	14.3%	
		20-12	協働をもたらすプラットフォーム設計	30.0%	30.8%	14.3%	
	地域の情報化	20-13	地域資源の発見と情報発信	60.0%	46.2%	71.4%	
		20-14	情報技術と組織変革	40.0%	51.3%	14.3%	
		20-15	安否確認システムなどの非常時情報通信と安全安心プラットフォーム	20.0%	30.8%	0.0%	

図 123 地域活性化分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

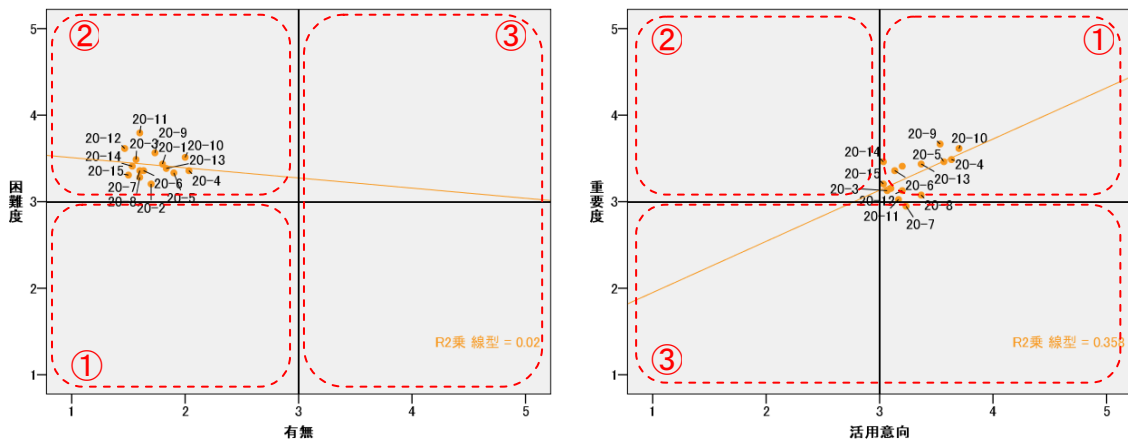


図 124 地域活性化分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.21 環境・自然分野

環境・自然分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=81)	企業教育ニーズ (n=32)	大学ニーズ (n=5)	0% 50% 100%
環境・自然	環境概論	21-1	環境政策の現状(国内、海外)	58.0%	62.5%	40.0%	
		21-2	自然保護・再生施策	81.5%	56.3%	20.0%	
		21-3	森林・河川環境・生態学	67.9%	50.0%	60.0%	
		21-4	地球温暖化対策	72.8%	75.0%	60.0%	
	調査方法	21-5	地形・地質調査法	44.4%	21.9%	20.0%	
		21-6	植物生態調査法	56.8%	9.4%	40.0%	
	野生動物	21-7	野生動物の保護・管理、関連法規	44.4%	18.8%	20.0%	
		21-8	動物の生態調査方法・捕獲方法・Zoonosis(人獣共通感染症)など	32.1%	15.6%	20.0%	
	防災	21-9	地震対策	58.0%	65.6%	20.0%	
		21-10	洪水・津波対策	38.3%	25.0%	20.0%	
	地域の環境	21-11	地域のリソース・資源の活用	30.9%	43.8%	40.0%	
		21-12	環境マネジメント	49.4%	71.9%	40.0%	
		21-13	地域住民の合意形成手法の理解	22.2%	28.1%	60.0%	
	企業と環境対策	21-14	CSR(企業の社会的責任)、SRI(社会的責任投資)	23.5%	43.8%	20.0%	
		21-15	環境マネジメント	35.8%	53.1%	20.0%	

図 125 環境・自然分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

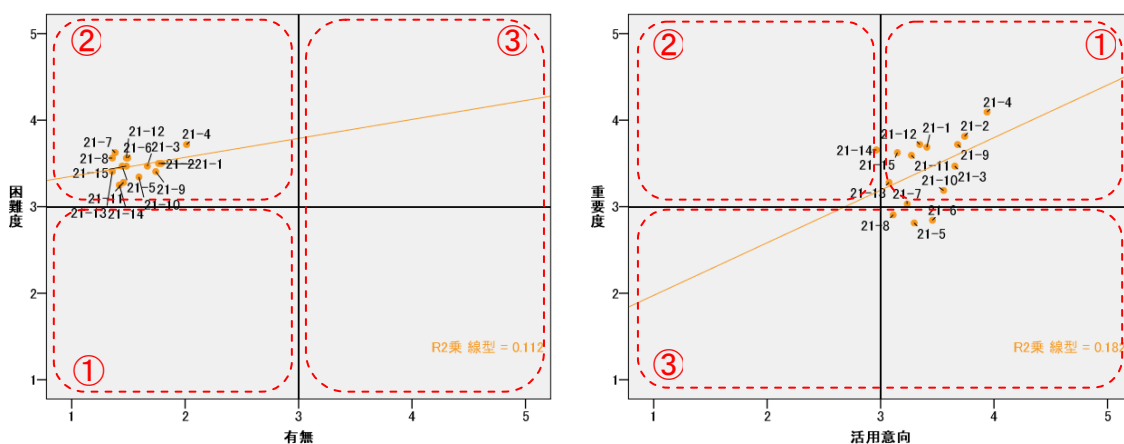


図 126 環境・自然分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度 (左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度 (右)

5.2.22 文化・歴史遺産分野

文化・歴史遺産分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=83)	企業教育ニーズ (n=13)	大学ニーズ (n=3)	0%	50%	100%
文化・歴史遺産	文化財	22-1	世界遺産や文化財をめぐる制度・法規とコンプライアンス	48.2%	23.1%	66.7%	[Bar chart showing needs for 22-1]		
		22-2	文化財の保護と景観の保全	57.8%	38.5%	66.7%	[Bar chart showing needs for 22-2]		
		22-3	歴史的建造物	78.3%	30.8%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-3]		
		22-4	文化遺産のインタープリテーション・メソッド(解説手法)	34.9%	23.1%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-4]		
	考古学	22-5	考古学概説	50.6%	23.1%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-5]		
	文化財の保存・デジタル化	22-6	資料の収集、整理、保存、管理	48.2%	53.8%	66.7%	[Bar chart showing needs for 22-6]		
		22-7	文化情報の管理と流通	21.7%	30.8%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-7]		
		22-8	文化情報のデータベース化	30.1%	61.5%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-8]		
		22-9	重要文化財の維持管理と修復	36.1%	15.4%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-9]		
		22-10	情報メディアと著作権	25.3%	38.5%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-10]		
		22-11	情報モラルと知的財産権	24.1%	53.8%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-11]		
		22-12	観光振興と文化遺産	50.6%	30.8%	66.7%	[Bar chart showing needs for 22-12]		
	地域と文化財	22-13	行政と市民と専門家の役割	16.9%	38.5%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-13]		
		22-14	地域文化の振興と継承	44.6%	30.8%	100.0%	[Bar chart showing needs for 22-14]		
		22-15	伝統文化の理解	65.1%	61.5%	33.3%	[Bar chart showing needs for 22-15]		

図 127 文化・歴史遺産分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

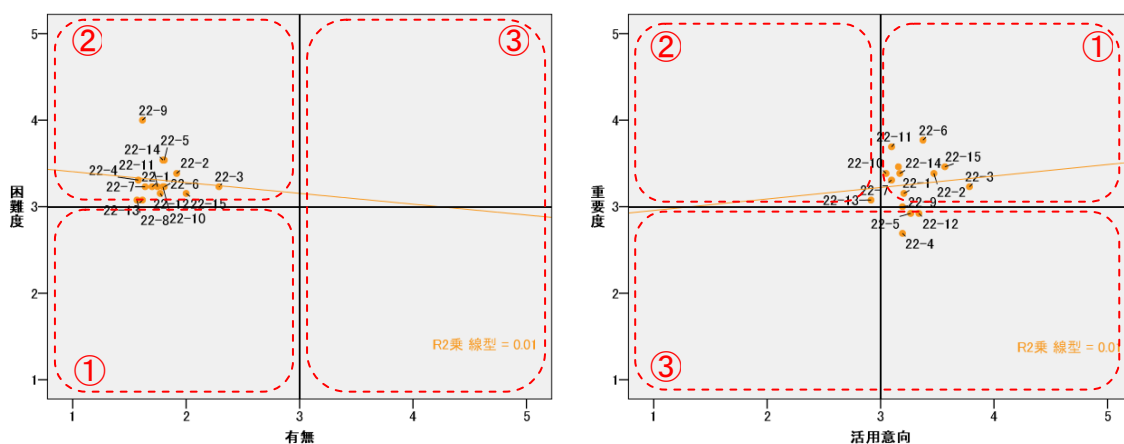


図 128 文化・歴史遺産分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度（左）、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度（右）

5.2.23 農学分野

農学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=54)	企業教育ニーズ (n=19)	大学ニーズ (n=5)	
農学	農業	23-1	現代農業と農業政策、国際化	40.7%	52.6%	20.0%	
		23-2	環境保全型農業技術	57.4%	63.2%	40.0%	
		23-3	生産安定技術	64.8%	68.4%	20.0%	
		23-4	バイオ技術の方法・活用と安全性	64.8%	42.1%	20.0%	
		23-5	消費ニーズに対応した生産技術	33.3%	57.9%	20.0%	
		23-6	ITを活用した生産・販売管理	35.2%	68.4%	0.0%	
		23-7	循環農法、収穫法、有機農法など	66.7%	47.4%	0.0%	
		23-8	土壌学、肥料学、作物学、果樹学、野菜学、育種学など	81.5%	57.9%	20.0%	
	林業	23-9	間伐の設計、施業、実施評価など	33.3%	15.8%	20.0%	
	畜産業	23-10	家畜学など	29.6%	26.3%	20.0%	
	ビジネスの基礎知識・技能	23-11	マーケティング	40.7%	63.2%	20.0%	
		23-12	集落型経営体の管理	20.4%	26.3%	40.0%	
		23-13	製品企画	38.9%	31.6%	20.0%	
		23-14	コスト管理、工程管理	44.4%	57.9%	20.0%	
		23-15	食の安全性と関連法規	64.8%	57.9%	40.0%	

図 129 農学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

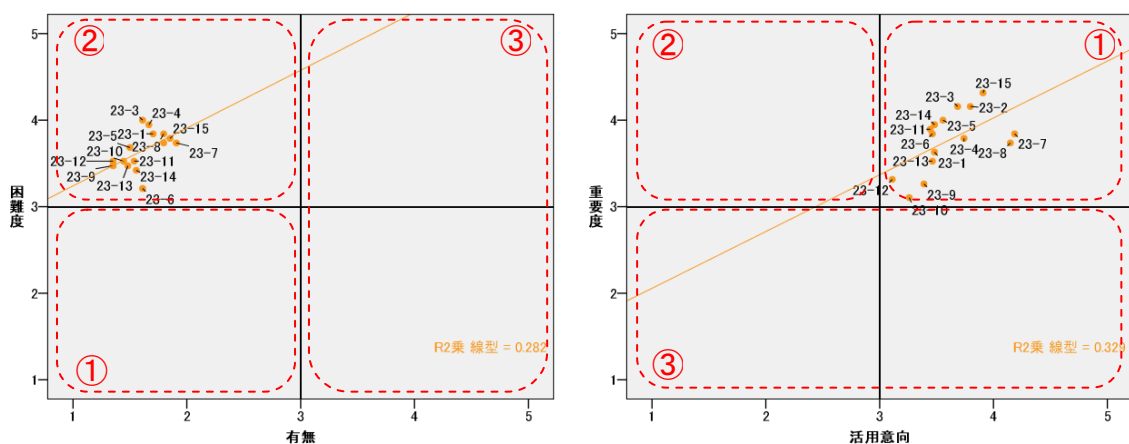


図 130 農学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)

5.2.24 IT 分野

IT 分野において、知識・技能項目に対する 3 者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中 カ テ ゴ リ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学 習ニーズ (n=353)	企業教 育ニーズ (n=226)	大学 ニーズ (n=12)	0% 50% 100%
IT	パソコン基礎	24-1	パソコンの使い方、文書作成・表計算等ソフトの使い方	75.4%	87.6%	33.3%	
	Webデザイン・グラフィックス	24-2	PhotoshopやIllustrator、Dreamweaver等の操作	64.0%	55.3%	16.7%	
		24-3	サイトデザイン、ページデザイン	61.2%	44.2%	33.3%	
		24-4	PHPなどのWebプログラミング	45.6%	38.9%	8.3%	
		24-5	CG、3次元モデリング	38.0%	28.8%	8.3%	
		24-6	Premiere ProやAfter Effectsの操作	14.4%	15.5%	8.3%	
	映像	24-7	シナリオ・ビデオ撮影	21.8%	16.8%	8.3%	
		24-8	CAD操作、作図・製図	47.0%	47.8%	33.3%	
	ネットワーク	24-9	ネットワーク概論	45.3%	60.6%	33.3%	
		24-10	情報セキュリティ	61.2%	73.9%	33.3%	
	オープンソース・OS	24-11	サーバ構築・運用	47.3%	61.1%	16.7%	
	システム開発・プログラミング	24-12	モデリング、アルゴリズム	20.1%	16.4%	16.7%	
		24-13	Javaなどのプログラミング	48.4%	37.6%	8.3%	
		24-14	データベース構築とWebとの連携	55.0%	54.9%	16.7%	
	ビジネスの基礎知識・技能	24-15	キャリアデザイン	22.4%	21.7%	16.7%	

図 131 IT 分野の知識・技能項目に対する 3 者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

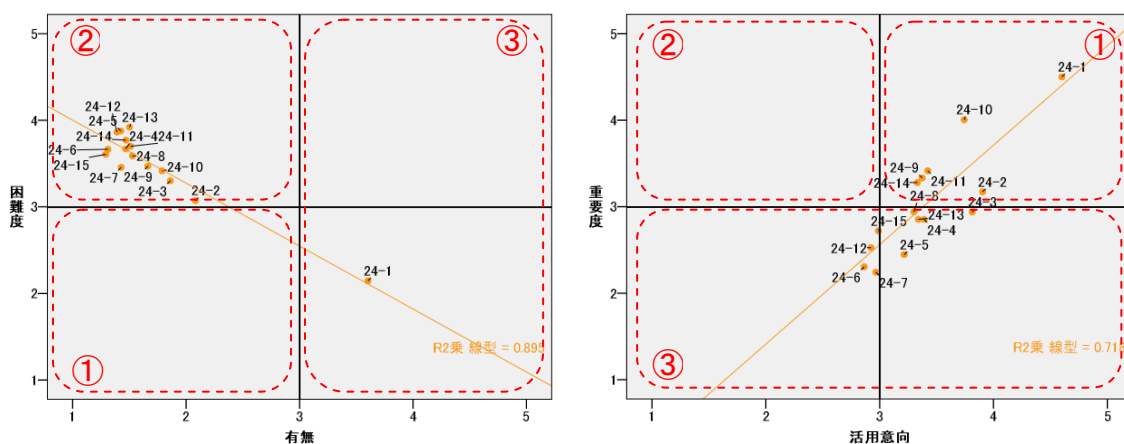


図 132 IT 分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度 (左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度 (右)

5.2.25 建設・建築分野

建設・建築分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=79)	企業教育ニーズ (n=66)	大学ニーズ (n=3)	0%	50%	100%
建設・建築	CAD	25-1	CADの操作	84.8%	86.4%	66.7%	[Bar chart showing needs for CAD operation]		
		25-2	CADによる図面作成	92.4%	87.9%	66.7%	[Bar chart showing needs for CAD drawing creation]		
	グラフィック	25-3	PhotoshopやIllustratorの操作とデジカメ活用	64.6%	56.1%	33.3%	[Bar chart showing needs for graphic design]		
		25-4	3次元CGソフト(3ds-Maxなど)の操作	58.2%	50.0%	33.3%	[Bar chart showing needs for 3D software]		
	構造物	25-5	モデル構造物と実構造物	43.0%	30.3%	33.3%	[Bar chart showing needs for structural models]		
		25-6	微・非破壊診断法	26.6%	16.7%	33.3%	[Bar chart showing needs for non-destructive testing]		
		25-7	コンクリート構造物の健全度診断	32.9%	40.9%	33.3%	[Bar chart showing needs for concrete structure diagnosis]		
	ICTによる原価・工程管理	25-8	建設業におけるICT利活用の動向	32.9%	39.4%	33.3%	[Bar chart showing needs for ICT trends]		
		25-9	予算管理の手法	30.4%	66.7%	33.3%	[Bar chart showing needs for budget management]		
		25-10	原価管理の手法	35.4%	71.2%	33.3%	[Bar chart showing needs for cost management]		
		25-11	工程管理の手法	34.2%	63.6%	33.3%	[Bar chart showing needs for project management]		
	ビジネスの基礎知識・技能	25-12	文書作成・表計算等ソフトの使い方	60.8%	68.2%	0.0%	[Bar chart showing needs for software skills]		
		25-13	効果的な資料作成	50.6%	54.5%	33.3%	[Bar chart showing needs for effective materials]		
		25-14	就職支援	26.6%	9.1%	33.3%	[Bar chart showing needs for job support]		
		25-15	キャリアデザイン	31.6%	16.7%	0.0%	[Bar chart showing needs for career design]		

図 133 建設・建築分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

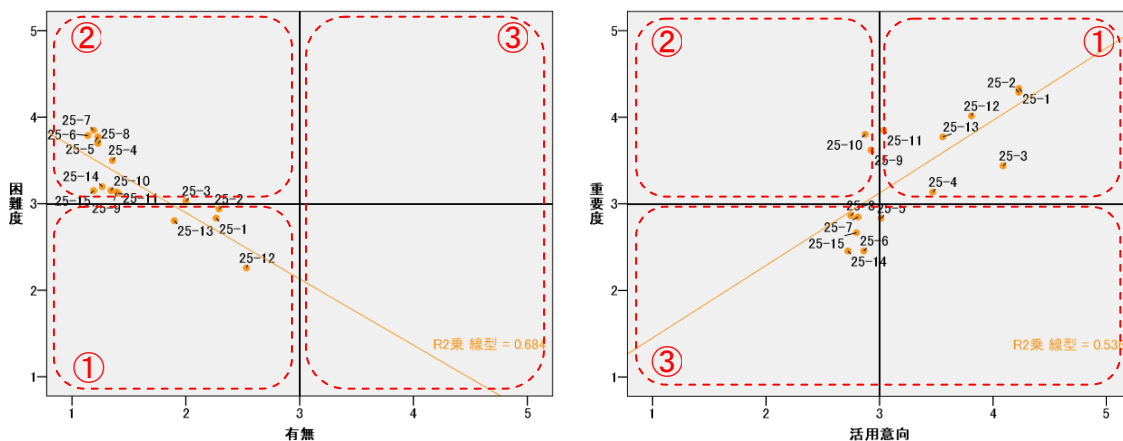


図 134 建設・建築分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度 (左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度 (右)

5.2.26 工学分野

工学分野において、知識・技能項目に対する3者ニーズについて集計した結果を以下に示す。

中カテゴリ	小カテゴリ	No.	知識・技能項目	受講者学習ニーズ (n=54)	企業教育ニーズ (n=60)	大学ニーズ (n=10)	0% 50% 100%
工学の基礎知識・技能	物質・材料および分析機器	26-1	材料力学、有限要素法など	44.4%	45.0%	40.0%	
		26-2	物質の分析の原理と応用	42.6%	36.7%	20.0%	
		26-3	分析機器の取り扱い	33.3%	33.3%	20.0%	
	機械製図・設計とCAD操作	26-4	ドラフターを使った手書き製図	25.9%	30.0%	20.0%	
		26-5	CADの操作、作図	61.1%	70.0%	40.0%	
		26-6	CAE(Computer Aided Engineering:コンピュータによる設計支援)	44.4%	35.0%	50.0%	
		26-7	構造解析の基礎	42.6%	51.7%	30.0%	
工学	組込み系開発	26-8	組込み系ソフトウェア開発の流れと手法	59.3%	43.3%	20.0%	
		26-9	ハードウェア記述言語によるデジタル回路設計技法	61.1%	43.3%	10.0%	
		26-10	割り込みプログラミング技法	53.7%	33.3%	30.0%	
		26-11	ソフトウェアとハードウェアを統合した組込みシステムの開発手法	63.0%	48.3%	10.0%	
		26-12	LEDやモーターなどの制御	50.0%	35.0%	40.0%	
	26-13	テクノロジーと経営	13.0%	11.7%	10.0%		
研究開発のマネジメント	26-14	プロジェクト・マネジメント	40.7%	53.3%	20.0%		
	26-15	研究から実用化・商品化までの業務フローと各ステップでの考え方	57.4%	46.7%	30.0%		

図 135 工学分野の知識・技能項目に対する3者ニーズ

次に、受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する知識・技能項目の獲得困難度について、また、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と、企業が認識する知識・技能項目の日常業務等における重要度について、それぞれ集計した結果を以下に示す。

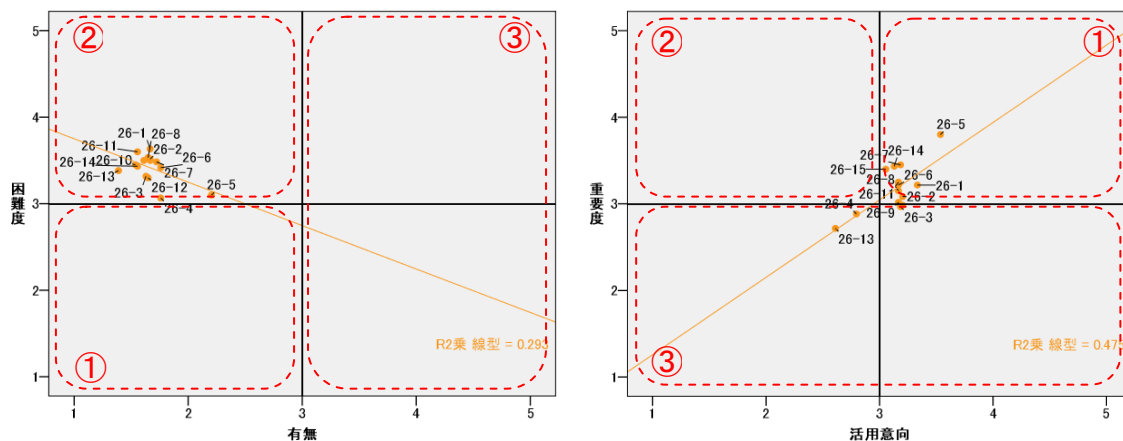


図 136 工学分野において受講者が認識する知識・技能項目の有無と企業が認識する獲得困難度(左)、受講者が認識する知識・技能項目の活用意向と企業が認識する重要度(右)